

2023 年度事業報告書

2023 年 4 月 1 日から
2024 年 3 月 31 日まで

学校法人コリア国際学園

I. 学校法人概要

1. 建学の精神

グローバル化・情報化が加速する21世紀の国際社会においては、柔軟な発想と幅広いコミュニケーション能力を兼ね備え、問題解決能力に優れた人間が求められている。

コリア国際学園は、在日コリアンはじめ多様な文化的背景を持つ生徒たちが、自らのアイデンティティについて自由に見つめながら、確かな学力と豊かな個性を持った創造的人間として国々と境界をまたぎ活躍できる、「越境人」の育成を目指す。

全ての教育活動を通じて相互の信頼と協同を深め、地域社会に根ざし、世界に開かれた国際学校として、東アジアはじめ世界の持続可能な発展に貢献する。

2. 教育理念と目指す学校像

- 1) 多文化共生／民族的アイデンティティと自尊感情を育むとともに、多文化共生社会の実現に向けた知識、技能、態度を身につけた人間を育成する。
- 2) 人権と平和／人間の尊厳と民主主義を尊重し、世界平和を希求する普遍的価値を創造するとともに、地球的視野を持ち、持続可能な社会の構築に貢献できる人間を育成する。
- 3) 自由と創造／真の自由を理解し、豊かな個性と多様性を基礎とした創造力の溢れる人間を育成する。

建学の精神および教育理念を具現化し、地域社会および国際社会に貢献する人材を育てる学校を目指す。少人数学校の特長を生かし、一人ひとりの学生の生活背景をしっかりと掴み、学びと育ちを支援し、その夢の実現に向けて共に歩む学校を目指す。来るべき東アジア共同体時代を展望しつつ、それを教育空間に先取りし、多文化共生の成功した学校モデルを提供することを社会に対する責務とする。

3. 名称 学校法人コリア国際学園
4. 住所 大阪府茨木市豊川2丁目13番35号
5. 設置する学校 コリア国際学園 中等部高等部
6. 学科、修業年限並び定員

学科	修業年限	定員
中等部	3年	35名
高等部	3年	35名

7. 理事会・評議員会（2023年4月現在）

理事長名 金淳次

理事数 6名 監事数 2名 評議員数 13名

8. 教職員の現況 (2023年4月現在)

	専任	兼任	合計
教員	14名	17名	31名
職員	3名	2名	5名
合計	17名	19名	36名

9. 生徒数 (2023年4月現在)

	1年	2年	3年
中等部	12名	13名	6名
高等部	24名	26名	13名
合計	94名(50)		

()内はK-POP エンターテイメントコース

II. 教育活動状況

2023年度は開校15周年の節目の年であったが、創立以来の教育方針を再確認するとともに「わかる授業」、「楽しい学校」づくりを目指して教育活動を進めてきた。

コリア国際学園は、昨年度にも引き続き KIS 教育理念に基づいた学校運営の永続性確保、教育活動全般を中期的な拡大発展に向け反転させて行く方針のもと、KIS 国際コース・IB コース・K-POP エンターテイメントコース、各教育コースをより充実させ、生徒募集、運営基盤改善のために全力を投じてきた。

1. 楽しい授業で学力を引き上げ、「越境人」に相応しい「多文化共生」、「人権と平和」、「自由と創造」を意識できる生徒を育てることに尽力してきた。

①楽しい授業、学びの起きる授業を目指して、グループワークなどの学び合いやアクティブラーニングの拡大を強調して一定の効果があった。アクティブラーニングの一つの具体例として、いわゆる「反転授業」に全学で取り組むという方向性を打ち出し、2回の教員研修を実施して、2024年度からの段階的実施に向けて準備を進めることができた。

②「生きる力」を「リベラルアーツ(自由になれる技)」として捉え、2024年度全面実施に向けて、後期から「土曜講座」シリーズを企画し実施することができた。

③KPOP コース生徒の増加につれ、進路を具体的に模索しなければならない中で、i 在校生に向けてはソウル公演芸術高校と連携ができ、夏休みのプログラムや半年ほどの留学制度の創設を提案することで好意的な反応を得ることができた、ii 韓国に進学したい生徒に向けては、実用ダンスや実用音楽系の大学の指定校開拓の必要がある、iii 日本国内に進学したい生徒に向けては、4年生大学のほか専門学校にも視野を広げる必要がある。

KPOP コース設置から3年間紆余曲折があったものの、2024年度から新しい体制に移行する準備ができた。一方、KIS コース生徒の増加に向けて、在阪の道民会と朝鮮族総会にもアプローチし今後も持続的な接触を図り、コリア系生徒が入りやすい条件を整えて行く必要がある。

- ④留学生の受け入れに向け、韓国の韓日協会のほか、新たに中国・香港を対象にした New Horizon Education、韓国のチャンウォン留学院とも協定を結んだ。NHE は香港の教育博覧会に参加したので、KIS 学園パンフレットの中国版を作り支援した。チャンウォンからは 1 名の留学生が生まれた。
- ⑤IB コースは、僅か 2 名(高 2)の履修者という状況で、各コース(KIS、KPOP、留学生、IB)限られた教員体制の中で細分化されていて、IB としての対外的ブランド力がどこまで発揮されているか疑わしい状況である。将来 IB を各コースの共通とし、IB スクールとしての位置づけを明確にして行くという方向性を打ち出すことができた。そのため中等部 1 年から高等部 1 年までの MYP 過程を 3 年後の 2027 年度からの実施を設定し、MYP 準備担当者も決められた。3 年間の時間の中で、全生徒が十分履修できるよう学習能力や学習態度を固める必要がある。
- ⑥IB の一つの手法でもあるが、科目横断的共通テーマ学習週間を初めて導入することができた。2023 年は関東大震災 100 周年でもあったが「災害と人間の安全」(8/28~9/1)を共通テーマとし、5~6 月にトルコ・シリア地震災害支援活動(トルコ出身の方を招いて講演、生徒会とユネスコ委員会を中心に 2 回の駅前募金)に取り組んだ。7 月には気仙沼ボランティアに 4 名が参加、10 月末には茨木市内の 4 つのユネスコスクールに合同駅前募金活動を呼びかけて実施し、トルコの被災者に伝達した。
- 共通テーマ学習週間(8/28~9/1)期間中は、理数科も含めて、地震の起こるメカニズムや地震をめぐる文学作品、関東大震災時の朝鮮人虐殺問題などを取り上げて、一つのテーマと関連して多方面からの理解を高めることができた。
- ⑦今後アジア途上国との接点を増やして行くという方向性を打ち出し、手始めにシェアリングという外部団体のプログラムを積極推薦して、4 名がタイの山岳少数民族地域のボランティアに参加できた。
- ⑧韓国研修も城南市青少年財団プログラムの復活(最大 10 名参加)、全羅南道教育庁国際教育院(2 名参加可能)の夏休みプログラムへの新規参加など滞在費無料の安価なプログラムを用意することができた。今後も各教育団体などの招請プログラムを研究して機会を増やして行きたい。
- ⑨李熙健韓日交流財団より多額の支援を受け、今後 3 年間、IB コースの全学年実施、反転授業、リベラルアーツ科、3 言語大会の規模拡大、アジアへの展開、KPOP コース充実化、K 演技コース設置に向けた事前調査、KIS カルチュラルセンター運営に充てる事業推進計画が策定された。
- ⑩各科目の全国共通学力確認試験などを導入し、学力向上の客観的目標を持たせ、毎年成長を確認できるようにとしたが、数検の検討をしたことに留まり結局新たな導入には至らなかった。

2. 生徒が成長できる楽しい学校作りを目指して取り組んだ。

- ①課題のある生徒について、担任を中心に情報集約、予防および即応体制を固め、早期の対応をするとしたが有効に機能しなかつた。
- ②各科目の全国共通学力確認試験およびコリア語、英語授業の能力試験、英検等との連動を通じて学力向上の客観的目標を持たせ、毎年成長を確認できるようにとしたが不十分であった。
- ③生徒会および各生徒委員会の活動を支援する一方、部活の奨励、活性化に取り組みテコンドー、バドミントン、美術部などいくつかの部活動を新たに設立支援することができた。
- ④土曜日および休暇期間を利用した魅力あるプログラムを作り、生徒の多様な関心に応えていく方向で UNESCO の ESD Passport を使って、IB-CAS 活動(創造性、活動、社会奉仕のためのサポートネットワーク作り、NPO や社会機関と関係)を奨励した。

- ⑤KIS 越境人賞を新設し、困難に立ち向かって、個人またはグループで、それを乗り越えた人について、生徒の投票と教員推薦で選抜し卒業式終業式で表彰するようにした。
- ⑥地域との接点を拡大し生徒募集にも繋げる意図で、土曜日の遊休施設を利用して KIS カルチュラルセンターを作り、後期から実施することができた。韓国語教室に 4 名、KPOP に 2 名が有料受講している。今後、広報活動を積極展開することで拡大を図る。

3. 各部門が重点項目達成に向け注力した。

1) 教務部

- ①授業を通じて「人・多様性・学び」を尊重する心を育てることを念頭に特別授業の企画、実施、科目横断的共通テーマ週間を通して社会との繋がりを深めるとともに、課題探求型学習など生徒の主体的な学びを中心とした授業を目指し、問題解決能力、コミュニケーション能力、思考力、表現力等を育成することに重点を置いた。
- ②教員研修や研究を通して、授業の質の向上を図り、基礎学力の伸長・向上を目指して次年度からの反転授業実施に向けたアンケートの実施、現状や問題点を把握するとともに、わかる授業を目指して学習方法論科目設置を準備するしてきた。
- ③教務事務等全般を不断に改善していくため意識的に取り組んできた。

2) 生徒支援部

- ①建学の精神、教育理念にそって自主的で創造的な学校生活、集団生活、自治活動を展開できるように支援し、担任と連携しての生徒指導に尽力、相手の立場を尊重し互いに認め合える生徒を育てることに注力した。
- ②生徒指導において、生徒が自身を個性的存在として認め、自己に内在しているよさや可能性に自ら気づき引き出すこと、自他の個性を尊重し相手の立場に立って考え行動できる相互扶助的で共感的な人間関係を作り上げること、問題解決的生徒指導は「担任⇒生徒支援部⇒校長・教頭」で対応する体制を徹底すること、常日頃から生徒と教職員間の信頼関係を深める努力をし生徒が相談しやすい環境を確立すること等に力点を置くこととした。
- ③生徒会の自主的・主体的活動を最大限支援し、新入生歓迎合宿、体育祭、文化祭、卒業式第 2 部など学校行事の企画運営に尽力するとともに、KIS Café 委員会・広報委員会・図書委員会・美化委員会・放送委員会・文化委員会など委員会活動を活発に進めてきた。3 言語使用イベントや欠席遅刻撲滅キャンペーンなど生徒よる各種キャンペーンの計画実施、豊川フェスティバル・箕面市立国際交流協会主催多民族フェスティバル等地域イベントへの積極的参加を推進した。

3) 進路指導部

- ①生徒の進路保障の観点から、高卒認定試験に頼らない進路実現を目指して、指定校推薦枠及び本校卒業資格で受験を認める大学を増やすべく、依頼文送付や資格審査の申し込み等を進めた。専門学校進学希望者、就職希望者を早めに把握し個別の確認とサポートをしっかりと行うことにした。
- ②社会に出た後の自分の役割を意識させる進路指導を行い、進路デザインを考えさせることに関心を払ってきた。

③進路実現に向けたきめ細かなサポートを行うが、出願等の手続きにおいて生徒の自立を促す指導に徹底し、先を見通した早めの指導を行い生徒の選択の幅が狭まらないよう留意することとした。

4. 法人運営の適正化に力を注いだ。

1) 教育現場の組織強化面においては、校長が交替した新しい体制の中で、教職員が限られた人員で各コースカリキュラムの執行、授業、担任、各部、生徒指導まで本当に労苦が多かった。

教職員の欠員がある状況で、質の良い教育という観点から人員の採用確保を計画的に行うよう改善し、教職員研修等レベルアップ、モチベーションアップのための施策強化に一義的な力を注いで行くことが喫緊となる。

2) 新しい任期を担う評議員(13名)、理事(6名)及び監事(2名)の責任と役割、会議出席率を高め、評議員会、理事会の機能強化に努めた。

①法人運営のさらなるガバナンス強化に注力し、財政基盤の改善を進めてきた。

②評議員会、理事会において令和5年私立学校法改正内容について把握し、令和7年4月移行に向けその対応準備を計画的に執行してきた。

3) 高等部授業料無償化に伴う授業料一時負担の解消のため、令和8年からの移行準備を着実に進めて行くこととした。

4) 教育活動方針を実践するにおいて、教職員会議、部長会議等を充実化させることに重点を置きながら、学校運営における、教職員、生徒会、保護者会、アボジ会、評議員会、理事会の連携を強化するため関心を注いだ。